

アセアン貿易フェア（ダバオ市）出展報告

4 ページの記事にあるビンビンさんが、COWHED 組合長メルチさんと相田さんのモニターに同行し、貿易フェアを見て来ました。その報告をお伝えします。

2006年1月13日から22日まで、ダバオ市のSM ショッピングモール内展示場にてアセアン貿易フェアが開催されました。私たちは18、19日に見に行ってきました。ミンダナオ中のさまざまな団体が出展していましたが、レイクセブからはCOWHEDが選ばれたのです。

参加団体はそれぞれ小さなブースを与えられます。COWHEDのブースは手工芸品でいっぱいでした。(相田注:ブースは全部で40ほどあり、そのうち10ブースがアクセサリー類を扱っていました。その他はドール等の大資本企業や、高級家具を扱っており、富裕層向けや輸出を行っている業者でした)

私は展示場の中を歩き回り、特にCOWHEDの手工芸品と同じ物を置いているブースに注目しました。同じティナラク織から作られた商品も、他のブースでは飾りが加えられ、COWHEDの物より見栄えが良くなっています。それで何故COWHEDの物があまり良く売れず、収入が少ないのかわかりました。

COWHEDの販売スタッフは「最も良く売れるのはビーズ製品」と言っていました。ネックレス、ブレスレット、アンクレットやイヤリングです。ただ色の組み合わせの良くなく商品もあり、人目を惹かないと感じました。また買う人は値引きを要求します。ある女性が200ペソのネックレスを150ペソで売ってくれないかと交渉してきました。スタッフは「180ペソなら」と言ったのですが、その女性は150ペソ以上出せないと言いはりました。私はスタッフを助けて何故大きな値引きができないのか説明しましたが、その女性は購入しませんでした。

販売スタッフはアセアン代表団来訪などの特別な時以外は、じろじろ見られるのが嫌で、チボリの民族衣装を着用していませんでした。相田さんも私も民族衣装を着た方が、人を惹きつけ、売上も上がると思いましたが、この点に関しては、COWHEDと話し合う必要を感じました。



COWHEDのブースの様子。色とりどりでホントにきれい。カラーでお見せできないのが残念です。(撮影・相田)

NGO キャパシティー・ビルディング研修参加報告

九島真紀子

11月26日～12月5日の10日間、(財)国際開発高等教育機構(FASID)主催の「NGO キャパシティー・ビルディング研修」に参加しました。研修地がフィリピンのカピテ州ということで、ウキウキしながら他のNGOからの参加者と共に成田から飛び立ったのですが、みっちり詰まった講義内容に圧倒されました。

主な内容は、プロジェクトをモニタリングと評価するときに気をつけること、スタッフの活用・モニタリング・評価の仕方(これは具体的にロールプレイングが用いられました)を含む事務所のマネジメントについて、国際機関の役割を学ぶ(UNDPとユニセフのフィリピン事務所を訪問)、他のNGOの活動を学ぶ(マニラの有名なゴミ捨て場パヤタスの女性組合を訪問)と多岐に渡ります。

私は現在広報として現地を訪問したり、こうしてニュースレター作成を担当していますが、事務所の運営そのものはまかせきりですので、学ぶことがたくさんありました。また、フィリピン人のNGOのスタッフも4名参加していたので、「NGOに就職するのはどのような気持ちからなのか、どのような社会保障があるのか」など伺うことができました。

他の国で活動する日本人参加者もフィリピン人参加者も貧困をなくし、平和な世界を目指す気持ちは同じです。講師にも恵まれ、この学びをHANDSに持ち帰らねばと思っています。